



UNIVERSITY CONSORTIUM OF SOUTHERN OSAKA

特定非営利活動法人
南大阪地域大学コンソーシアム
ニュースレター

NO.8 | 2005 September

鈴木研究室 大阪明浄大学



鈴木 勝先生

に、今年になってO型であることが判明した…。

スーツに黒のリュックサック・後ろ籠付ママチャリの出で立ちは最近夏を迎えてクールビズになった以外はいかなる時も変わりない。そんな気取らない鈴木教授の専門は、本人曰く「何でも屋」：観光に関することは国内・海外旅行商品はもちろん、商品企画、観光振興、インバウンド旅行に観光行政、その他もろもろ興味があれば何でも研究する。「やりたい事がいっぱいありすぎちゃって困るんだよね」が口癖である。

と言うだけあって、先生は国内外をとにかくメチャクチャ飛び回る。やれイラン観光振興セミナーだ、北東アジア・アカデミックフォーラムだと日本各地、時に海外へと足を運ぶ。それも聴講にいくのではなく、大概は話者として壇上に居るわけで、その準備も半端なボリュームではない。「いや、

鈴木勝研究室。ドアの外側から鍵が刺さったままなので室内かと思えば出かけていたりする。本棚にぎっしりと観光関連の本がきれいに並べられているのとは対照的に机やプリンター前には大量の書類が微妙なバランスを保っている。私と同じB型に違いない、と信じて疑わなかったのに、今年になってO型であることが判明した…。

そうすると話す立場の自分が一生懸命勉強するでしょ？ほら、これ来週話す分なんだけど、掘り下げていくと面白いんだよねえ。」忙しい、と全く愚痴に聞こえない調子で愚痴をこぼしながら満面に笑みを浮かべる。



先生のフットワークの軽さは個人プレーに留まらない。2002年1月には「安全確認のため」9・11テロ後いち早く学生とニューヨークへ乗り込み、今年は2月にゼミ旅行を決めたかと思えばパパッと現地旅行会社と現地ホテルの訪問研修の手配をし、気がつけばオーストラリアへ着地である。国内でも旅行博にインバウンドセミナー、アラスカ旅行の商談会など招待状が届くものには「学生を連れて行きます」と添えて返信し、私用で旅行会社の事務所を訪れる際に居合わせれば「学生の勉強にもなりますんで、ちょっと一緒に失礼します。」とさらっと引き入れてくれる。あの笑顔をもってすれば、誰も断れない。

鈴木教授の行動基盤は「自分の目で見なきゃ信じない」。自分が目にした最前線を私達学生に伝え、同時に自分で足を運び「現状」を知る重要さを説く。そして実際に足を運ぶ機会を与えてくれる。自分の知識・強みを出し惜しみしない、いずれより良くなって返ってくるから。無理強いはしないが、やる気があればとことん付き合う。

そんなスタイルを慕ってか今日も鈴木勝研究室を目指して大学内外からの訪問客が止まない。

観光に関することならお任せ！

フットワークの軽さから学ぶ最前線。



取材記者
船井佳美
観光学部観光学科
4回生